

音楽科

1 音楽科の研究主題

「豊かな感性を養う指導の在り方」

- (1) 判断力：パート練習を活用して自主性・協調性を身に付けさせる。
- (2) 表現力：自己評価カード及び楽譜への書き込みを通して表現力を身に付けさせる。
- (3) 基礎基本の定着：小テストの活用と工夫を図る。

2 主題設定のねらい

パートリーダーを中心に、パート練習を進める中で、自主的に練習を進め、表現面での工夫等も生徒で話し合わせて高度な表現力を身に付けさせたいと考えている。音楽に対し積極的にしかかわる姿勢を高めることは、情操豊かな心を養うためにも必要だと考えている。

3 20年度取り組みからの考察・課題

パートリーダーを中心に活発な活動を行うことができ、練習中の発言も多く、自主的に練習を進めることができた。小テストの活用や、楽譜への書き込みによって、楽譜に対する興味が少しずつ出てきた。しかし、クラスや学年によって練習内容に差が出てくる状況が見受けられ、生徒の実態に応じた指導や、課題提示が重要だと考えている。生徒に考えさせ自主的に行わせる部分だけでなく、指導者側の的確な課題提示や生徒への投げかけが今後の課題であるとする。

4 21年度の取り組み

(1) パートリーダーの育成

全体指導だけでなく、リーダーへの課題提示を行うことでパートごとに自主的に考えて進める練習を取り組ませる。

(2) パート練習の工夫

生徒だけで行う練習に目標をもたせ、確認・評価の時間を設ける。

(3) 音楽用語の活用

用語理解や、表現における必要性を理解させることで、生徒たちの表現活動につなげる工夫を行う。また、音楽用語は作曲者の意思表示でもあり、歌詞表現に必要不可欠であることも理解させた活用を行う。

(4) 楽譜の活用

楽譜から読み取れる事柄を理解させ、音符が読めない生徒でも意欲的に楽譜を活用できるように促す工夫を行う。また、必要なことを書き込ませることで、表現の統一を図り、自主的に表現活動に取り組ませる。

資料①（男声パート）



資料②（ソプラノパート）



資料③（合唱練習）



また、判断力と表現力については、考える要素を与えることでこれらの力を高めることができると感じている。授業では、課題を与えパートごとに練習を通して考え歌うことを繰り返させることで、自分たちの歌唱表現に変化を感じ、次のステップへ進める流れができています。このような展開を定着させるには、指導者側の助言が必要不可欠であり、的確な言葉選びと時間配分は指導者側に最も必要とされる力であることを感じた。

資料④（生徒の楽譜）



また、個別・パート・全体という授業形態も的確に判断しながら行うことが必要であるとも感じている。さらに、楽譜への書き込みを積極的に行わせる指導を繰り返し行い、書かせることで意識を高めることが可能であることも分かった。参考資料の写真④は、実際に必要だと感じている表現を生徒自らが書き込んだものである。

こうした積み重ねにより、新学習指導要領にある「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」、さらには「音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。」ことへもつながると考えている。参考資料の写真⑤でも分かるように、生徒が自己評価をするだけでなく、周囲にも目を向けていることが文章から推測できる。自己評価カードでは、必要に応じて指導者側のコメントも書き添えて毎時間返却するようにしている。こうしたかかわりも、生徒の表現意欲を高めるには必要であると考えている。

資料⑤（自己評価カード）

感想・反省・気付いたこと・出来なかったこと など

評価: A

2/9/12
白デーなので音程はとりやすか、たのめすが、ソファノは高い音程がよく出てくるので声がかすれてしまいました。鼻のスピードが、ていさかたをかんはうと思、いほ

A

ほは高い音が声がかすかすしてしまいます。あんまり出そうとすると声がかうかえるし、出さないとかすかすするし。そういう所がいくつもあるのが難しいです。もう少し研究してみようと思います。

A

のはしの、ていさかたをソファノでとる、いっし、ました。イ、はのはしにくくさせて、次の音にも、ていさかたを感じます。し、かり、を、ていさかた、い、合唱を作りたいます。

感想・反省・気付いたこと・出来なかったこと など

やめではよくできたと思うけど、CDを聴かないでとれくらし出来るかは、自信がな

練習は自信をつけたいに、あ、い、だ、よ、う、

め、と、の、差、が、あ、ま、り、な、い、と、思、っ、た、。次、に、は、音、量、も、と、考、え、た、方、が、い、い、と、思、っ、た、。

... 下、は、?

来週は個人でやるので音程・表現

生徒たちは、自分たちで考え実行したことの評価を得ることで、できるようになったことを認識している。私たち指導者の評価こそ、生徒の判断力や表現力を高めるためには最も重要であると考えます。

今後は、今回も導入した「自分たちの歌唱から学ぶ」場面から、自分たちで判断できる要素を増やししながら、「聴かせる合唱」を意識させ、自分たちの心に残る合唱体験を多く学ばせていきたい。

5 具体的な実施例：音楽科学習指導案より

(1) 単元（題材）名 「明日へ」 歌唱表現を考えよう

(2) 題材設定の理由

音楽教育とは、生徒の将来の生活を豊かにするために、表現や鑑賞の活動を通し、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養わなければならないと考える。

「表現」のねらいは、表現活動の喜びや感動を体験することにより、意欲をもって音楽を表現しようとする態度を育てることにあると考えている。そこで、協調し合い、創り上げる喜びと、豊かに表現することが可能な合唱は、より深い音楽、より感動する音楽を生徒に味わわせ、体験させるのに格好の題材であると考えます。また、連合音楽発表会という行事を通し、より深い合唱表現を期待したい。

(3) 指導の目標

- ① 楽譜を活用し、表現を工夫しながら合わせて歌わせる。
- ② 連合音楽発表会に対する意識を高める。
- ③ パート練習を通して、互いを評価しながら高め合う活動をさせる。
- ④ 毎時間の課題に対し自己評価を行いながら自己の課題を考えさせる。

(4) 単元の評価規準

◆A 音楽への関心・意欲・態度	◆B 音楽的な感受や表現の工夫	◆C 表現の技能	◆D 鑑賞の能力
積極的に音楽活動へ参加する姿勢が見られる。 歌詞や旋律に合った強弱の変化に関心をもち、楽曲にふさわしい表現をしようとする。	楽譜を意欲的に活用し、歌詞の内容や、旋律を考えて、強弱を変化させることにより、楽曲にふさわしい表現を工夫することができる。	強弱の変化をつけることにより、楽曲のもつイメージを表現することができる。	模範演奏から得られる事柄を理解することができる。 自分たちの演奏から、表現の工夫を聴き取ることができる。

(5) 指導と評価の計画（全5時間扱い）

- 第1時** 読譜を通し楽曲の流れを理解させ、歌詞の内容や美しさについて感じとらせる。
- 第2時** パート練習に取り組ませ、音程・リズム・言葉の発音などをそろえて歌唱できるようにする。
- 第3時** 各声部の役割や響きの調和を考えながら、曲にふさわしい発声や表現方法を学ばせる。
- 第4時** 曲のもつ豊かさや美しさを表現する工夫をさせる。
- 第5時** 連合音楽発表会への意識を高め、楽曲をよりよく表現するための工夫をさせる。（本時）

(6) 本時の指導目標

- ① 表現の工夫を考えさせ、自分たちの合唱から伝える合唱を学ばせる。
- ② 歌唱表現に対する意識を高める。
- ③ 自己の取り組みを評価し、全体での歌唱表現につながる意味を学ばせる。

(7) 本時の展開

	指導内容	学習活動	指導上の留意点・評価と評価方法
導入 5分	- 遅刻者・忘れ物チェック - あいさつ - 発声	正しい姿勢で発声を行わせる。	◇音楽係が行う。 【◆A・観察法】 ◇座席は合唱の並びで座らせる。 ◇歌唱姿勢を注意する。 ◇声をしっかり出させる。 【◆A・観察法】
展開 35分	- 課題提示「表現を考えて歌唱しよう」 「明日へ」合唱① 「明日へ」録音合唱② - 録音の鑑賞 - 発表 - 表現の工夫	- 自己評価カードに課題を記入させる。 - 表現内容を確認する。（フレーズ・ブレスの取り方・強弱・発音など） - 現在取り組んでいる歌い方を意識して歌唱させる。 1回目の歌唱から注意点を意識した合唱をさせる。 - 楽譜を見ながら鑑賞させる。 - 曲の雰囲気を感じ取らせる。 - パート別に表現の工夫を考えさせる。 - 録音を聴いて気付いたことを発表させる。 - 表現する部分をまとめさせ	◇各自の自己評価カードに課題を記入させる。 ◇前時までの指導内容を確認する。 ◇楽譜をしっかりと見て歌わせる。 【◆B・思考力】 ◇楽譜を使って注意点を口頭で説明する。 ◇合唱を録音する。 ◇自分たちの合唱から、表現について考えさせる。 【◆D・観察法】 ◇表現として感じ取れる部分と、表現しきれていない部分を聴き取らせる。 【◆BD・発言、鑑賞（読解）力】 ◇模造紙に書いた歌詞カードに

	・全体練習 ・「明日へ」録音	る。 ・まとめたことを意識して練習させる。 ・練習で表現をつけた部分を意識して歌わせる。	表現する部分を書き、共通理解と意識を高める。 ◇自分の楽譜に記入をさせる。 ◇楽譜を見て歌わせる。 ◇部分練習を行う。 ◇合唱を録音する。
まとめ 10分	・録音の鑑賞 ・自己評価カード記入・回収 ・あいさつ	・楽譜を見ながら鑑賞させる。 ・本時の課題を各自で評価させる。	◇最初の録音との違いを感じ取らせる。 ◇自分たちの表現が合唱から伝わってくるか確認を行う。 【◆AD・観察法、思考力、鑑賞（読解）力】 ◇自己評価と感想を記入させる。 ◇自己で取り組んだ表現を記入させる。 【◆B・自己評価カード】

◇留意点 ◆評価規準（A～Dは評価規準の項目）

(9) 評価

- ① 表現の工夫について考えることができたか。（表現の工夫）
- ② 楽譜を意欲的に活用する姿勢がみられたか。（関心・意欲・態度）
- ③ 積極的に発言する姿勢がみられたか。（関心・意欲・態度）

6 研究の検証、成果と課題

判断力・表現力を中心に取り組んだ研究主題であるが、読解力（読譜力）を盛り込んだ指導を行った。近年、生徒たちの実態として「聴覚に頼る傾向」があることは無視できない実態であると考え。中学校に入学してきた時点で楽譜の読めない生徒は半数近くいることも事実である。他教科を見ても、生徒は教科書を読むことは学習を進める上で重要なこととして受け止めていると感じるが、音楽の教科書を読む＝楽譜を読むことは、意外と意識が高くないように感じる。こうした実態を抱えた生徒たちと授業を展開する中、最初は模範視唱の音源を耳だけで聴き、楽譜の歌詞だけを懸命に追っている生徒たちだが、授業で楽譜のもつ力（音の高低・リズム理解・フレーズの動き等）に目を向けさせることで、参考資料の写真①・②・③のようにパート練習でも全体の合唱練習でも、楽譜をめくりながら歌唱する生徒が増えてくることが分かった。特に、パート練習では、生徒たちで考え練習する時間であるが、楽譜を利用して行っている様子が分かる。こうした現実を目の当たりにし、もう少し早い段階で読解力（読譜力）が高まる必要を感じた結果となった。